イカナゴ資源管理推進調査

倉田恵吉・羽生和弘・中西健吾[1)]
1)津農林水産事務所

目的

伊勢湾におけるイカナゴ漁業については，適切な親魚資源量確保のための終漁日設定等，翌年漁期を考慮した資源管理を行ってきたが，近年資源減少が著しく，平成28年から6漁期連続で解禁見合わせとなっている。イカナゴ資源の回復を図るため，資源状況の把握調査を実施するとともに，自ら資源管理に取り組む漁業者に必要な情報を提供することを目的とする。

方法

1 夏眠魚調査

伊勢湾口の出山海域（神島の南東約10㎞）及びその周辺海域において，親魚となる夏眠魚をから釣りにより定量的に採集し，分布密度，魚体サイズ，肥満度，年齢組成等を調査した（実施時期：6，7月）。

2 イカナゴ仔魚分布調査

ボンゴネットによるサンプリング調査を行い，イカナゴ仔魚の加入時期，発生量，成長量等を把握し，解禁日決定のための資料とした（実施時期：1月）。

結果および考察

1 夏眠魚調査

2021年6月の調査の採集尾数は0尾/km（2020年0尾/km），7月調査は0尾/km（2020年0尾/km）と夏眠魚は全く採集されなかった（図1）。

なお，2021年度の夏眠魚調査は海況と調査スケジュールが合わず，6月と7月の2回で終了した。

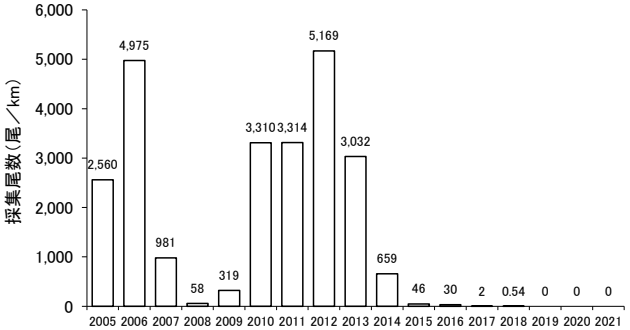

図1. 出山海域における夏眠魚採集尾数の推移
（5月下旬又は6月上旬採集　※2015年は7月）

2 イカナゴ仔魚分布調査

2022年1月15・16日に伊勢湾全域において実施したボンゴネットによるイカナゴ仔魚の分布調査では,仔魚は採集されず仔魚の加入は極めて悪く，過去の仔魚採集量の結果（表1）からも，2022年漁期の資源量については，解禁を見合わせた2016年，2017年，2018年，2019年，2020年，2021年漁期と同様に極めて厳しい状況となると予想された。

なお，2月調査は海況不良と調査船検査のため実施できなかった。

表1. ボンゴネットによるイカナゴ仔魚採集量

単位:尾／㎡　※愛知水試のデータを含む

漁期（年）		ボンゴネット稚仔魚採集量（尾／㎡） 12月下旬（湾口部） 愛知県	1月上旬 伊良湖前 愛知県	1月中旬 伊勢湾平均 三重県	1月下旬 全湾平均 愛知県	2月上旬 伊勢湾平均 三重県	2月中旬 伊勢湾平均 愛知県	解禁日	加入量（億尾）
H24	2012	0	141	118	60		25	3月8日	321
H25	2013	0～32	233	71	21	27		2月28日	302
H26	2014	0	815	26	70	29		3月2日	292
H27	2015	0	57	40	1	3		3月6日	89
H28	2016	0	0	0	0.07	0.04	0.05	見合わせ	－
H29	2017	0	0	0.02	0	0.02		見合わせ	－
H30	2018	0	0	0	0		0	見合わせ	－
H31	2019	0	0	0	0	0	0	見合わせ	－
R2	2020	0	0	0	0	0	0	見合わせ	－
R3	2021	0	0	0	0	0	0	見合わせ	－
R4	2022	0	0	0	0	－	0	見合わせ	－

※2017年1月下旬の全湾平均は、1月31日に愛知県が調査した三河湾と2月2-3日に三重県が調査した伊勢湾の結果を併せ1月下旬の値としています。

イカナゴの資源管理については翌年度親魚量20億尾をとり残す，とり残し資源量一定方策が執られてきた。

近年の調査結果からイカナゴ資源が非常に悪化していると予想されたことから，2016年漁期以降，6漁期連続でイカナゴ漁を解禁見合わせとしたが，資源回復の兆候は認められていない。このことは夏眠場の水温が上昇したことで，イカナゴ夏眠魚がへい死したことあるいは衰弱したイカナゴ親魚が資源の再生産に寄与できなかったことが推察される。今後も水温の推移と夏眠魚の生残との関連を検討していく必要がある。

なお，2022年漁期も三重県と愛知県の各漁業者代表の協議によりイカナゴ資源量は回復しておらず非常に悪化しているとの判断から，来漁期のための親魚を確保するために，2016年漁期から7漁期連続でイカナゴ漁の解禁が見合わせとなった。